Konica

取扱説明書

Digital Revio
KD-300Z

お買い上げありがとうございます。
このDigital Revio KD-300Zは、総画素334万画素CCD（有効画素数324万画素）を搭載した高画質デジタルスチルカメラです。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱いで末永くご使用ください。

SDメモリーカードまたはマルチメディアカード*をお使いください。
本書では、これらのカードのことを「メモリーカード」と称しております。

＊MultiMediaCard™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。
⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が想定されることを示します。
⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が切迫して想定されることを示します。

使用上のご注意

〈カメラ使用上の注意〉

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 撮影レンズ、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので十分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは 、SDメモリーカードまたはマルチメディアカードを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所（テレビやスピーカーのすぐ近くなど）では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 液晶モニターの画面を強く押したり、先の細いものでついたりするなど、強い衝撃を与えないでください。液晶モニターのガラスの破損など故障の原因になります。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多いところでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズやカメラ内部に水滴がつくことがあります。（結露現象）水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。結露が生じたときは直ちに電源を切って、結露がなくなるまで放置してください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

⚠ 警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● 本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などでストロボ部が破損したときは、内部には絶対に手を触れないでください。感電する危険があります。 ● カメラを分解・改造しないでください。高電圧がかかり、感電するおそれがあります。 ● フラッシュを人の目（特に乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特に光学ファインダーや液晶モニターを見ながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影中は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも充分注意をはらってください。

〈リセット機能について〉

このカメラは、外部の強力な電磁波や静電気等に対して極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は一度電池を取り出し、再度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉

- 熱い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくとカメラやＳＤメモリーカードまたはマルチメディアカード、電池等の性能を低下させ、故障の原因となりますので放置しないでください。
- カメラを長時間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠ 注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈リチウムイオンバッテリーパックのご注意〉

⚠ 注意	● 水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 濡れたバッテリーパックを使用・充電しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 幼児の手の届く場所には置かないでください。けがなどの事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。液漏れの原因になります。 ● できるだけ、常温（20℃ ±5℃）でご使用ください。夏期や冬期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が、低下し使用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。 ● バッテリーパックを使用しない場合には、湿気の少ない場所に保管してください。

⚠ 警告	● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。液漏れ、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 液漏れしたバッテリーパックを使用しないでください。バッテリーパック内の液が人体に付着すると傷害を起こす恐れがあります。万一、付着したらすぐにきれいな水で洗い流してください。 ● 破損したバッテリーパックを使用しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。

⚠ 危険	● 高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● バッテリーパックの（＋）（－）端子を金属物などでショートさせないでください。発熱、発煙、発火の原因になります。 ● カギ、ネックレス、コインなどの金属物と一緒に保管はしないでください。金属片などと端子が接触してショートする恐れがあります。 ● 火の中に投入したり、加熱しないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 分解や改造はしないでください。発熱、発煙、発火やバッテリーパック内の液が目に入り失明などの事故の原因になります。万一、バッテリーパックの液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い流してただちに医師の治療を受けてください。 ● このバッテリーパックは本機専用です。充電の際は必ずカメラに装てんして充電してください。バッテリーパックを本機以外に使用したり、市販の充電器等で充電すると、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。

リチウムイオンバッテリーパック
使用後はリサイクルへ

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。
市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

あなたが、実演や興業、展示物等を撮影したものは、個人で楽しむ等の他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物等のうちには、個人で楽しむ等の目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

● テレビは、ビデオ入力端子のあるタイプをご使用ください。

電波障害自主規制について：

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈AC アダプター取扱い上の注意〉

● AC アダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
● 長時間使用しないときは安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。（ACアダプターをコンセントから抜くときは先にプラグをカメラ本体から抜いてください。）
● カメラに電池をセットした状態で AC アダプターを使う場合、カメラの電源を OFF にして AC アダプターの抜き差しを行ってください。
● この AC アダプターは、本機カメラ専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

⚠ 注意	● AC アダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外のアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますので絶対におやめください。 ● コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足す等は絶対にしないでください。 ● 濡れた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電するおそれがあります。

⚠ 注意	● コンセントからの抜き差しは必ずACアダプター本体を持って行ってください。カメラからの抜き差しはプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。 ● AC アダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 警告	● プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。 ● コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど傷んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。 ● カバーをはずしたり、分解、修理、改造をしないでください。感電する危険があります。 ● プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、AC アダプターをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。 ● 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。 ● ACアダプターは家庭用電源コンセント（AC100V 50/60Hz）以外にはつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

※ SD ロゴは商標です。
※ QuickTime™およびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は、米国およびその他の国々で登録された商標です。
※ 全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

各部の名称

《操作部》

“ 🌷/▲ ”ボタン（30ページ）
マクロ撮影または遠景撮影モードに切り替えます。

“ ⚡ ”ボタン（28ページ）
各種フラッシュ撮影モードを切り替えます。

モード切替レバー
撮影、再生、セットアップのモードを切り替えます。

“ ◁ ／ ▷ ／ △ ／ ▽ ”ボタン
各種メニューの選択や再生画像の順／逆送りなどに使います。

“ W ”ボタン／“ T ”ボタン
撮影時はズーミング、再生時は画像の拡大表示ができます。

“ ◢ ”ボタン
液晶の明るさ調節や各種メニューの設定に使います。

“ DISPLAY ”ボタン
“ 📷 ”撮影モードのとき、液晶モニターの表示を出したり、消したりします。

“ MENU ”ボタン
撮影時または再生時のメニューを出したり、消したりします。

“ POWER ”ボタン
カメラ電源をONまたはOFFにします。

シャッターボタン

《表示部》

セルフタイマー LED（赤）
（32 ページ）
セルフタイマー撮影中は点滅、動画撮影中と再生時、セットアップ時は点灯します。

警告 LED（赤）
リチウムイオンバッテリーの充電状況とフラッシュの充電、カメラぶれ警告をお知らせします。

撮影時	フラッシュ充電中	点滅（約2回／秒）
	カメラぶれ警告	点滅（約4回／秒）
その他	バッテリー充電中	点灯
	バッテリー充電異常	点滅

スタンバイ LED（緑）
ピント合わせの状態とリチウムイオンバッテリーの充電完了をお知らせします。

カードアクセス LED（橙）
メモリーカードに画像などのデータを記録しているときに点滅します。
- 点滅中はカードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。

液晶モニター
撮影時はビューファインダー、再生時やセットアップ時は画像や各種メニューを表示します。

《その他》

《液晶モニターに表示されるマーク》

マクロ／遠景撮影モード→ 30 ページ
フラッシュモード→ 28 ページ
測光モード→ 45 ページ
合焦マーク：
ピントが合ったときに点灯します。
カラーモード→36ページまたはWB（ホワイトバランス）モード→ 37 ページ
画質→ 33 ページ
撮影可能枚数
AE（絞り優先）モード→ 40 ページ
感度→ 44 ページ
長時間露出→ 42 ページ
または露出補正値→ 35 ページ
電子ズーム→ 21 ページ
フォーカスゲージ→ 41 ページ：
マニュアルフォーカス（MF）時のみ表示
撮影時のメニュー表示
日付→ 18 ページ：
電源 ON 後、3 秒間表示します。
電池残量→ 15 ページ：
電池の残り容量を表示します。
セルフタイマー→ 32 ページ：
セルフタイマーの秒数も表示されます。

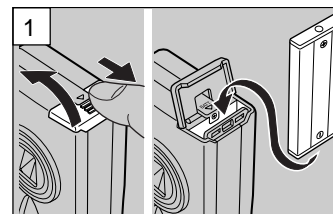
AUTO 10 x2 ±0.0 感度x2 F6.2 10 0.9 ∞ 2001. 7.15 M

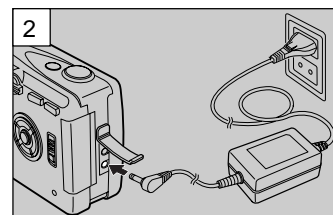
カメラの準備

同梱品について

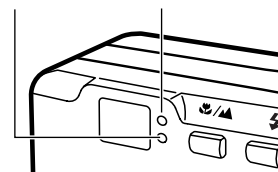
次の製品がそろっているかどうか、ご確認ください。

① カメラ本体
② マルチメディアカード
③ リチウムイオンバッテリーパック
④ AC アダプター
⑤ ビデオケーブル
⑥ ハンドストラップ
⑦ 取扱説明書（本書）
⑧ クイックスタートガイド
⑨ 保証書

電池の入れかたと充電のしかた

電池ぶたを開けて、バッテリーパック（同梱品）を入れます。

- バッテリーパックの入れる向きに注意してください。逆向きに入れた場合カメラは動作しません。

AC アダプターをカメラにつないで充電します。

《充電時間》

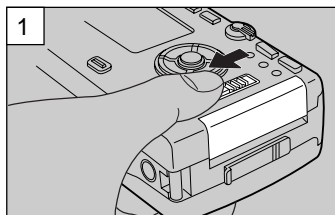
充電時間は約 5 時間です。

充電中は警告 LED が点灯します。充電が終わると警告 LED が消えスタンバイ LED が点灯します。

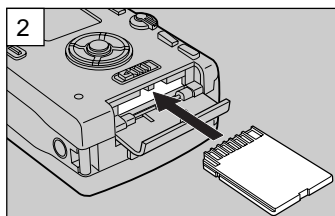
《充電の目安》

液晶モニターのバッテリー残量表示を目安に充電してください。

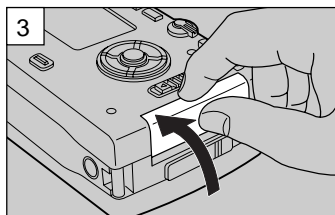
メモリーカードの入れかたと取り出しかた

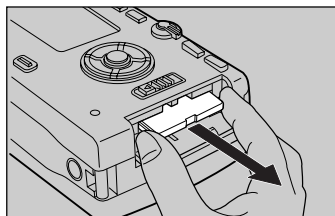
《入れかた》

1

カードカバー開放レバーをスライドしてカードカバーを開けます。

2

メモリーカードを入れます。

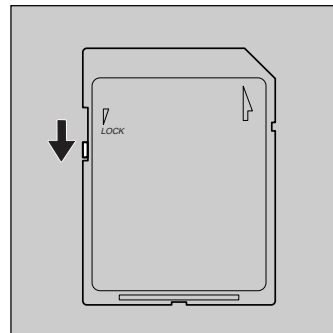
- メモリーカードは「カチッ」と音がして止まるところまで差し込んでください。
- メモリーカードの向きにご注意ください。

3

カードカバーを閉めます。

《取り出しかた》

カードカバー開放レバーをスライドしてカードカバーを開けてメモリーカードを取り出します。

- メモリーカードを軽く一回押してから取り出してください。

ライトプロテクト（書込禁止）スイッチ

※ SD メモリーカードのみ

SDメモリーカードにはライトプロテクトスイッチがついています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書込が禁止され、カードに保存されている画像などのデータが保護されます。
なお、この状態のカードを使って撮影や消去などはできません。

液晶モニターには“ ライトプロテクト ”と表示されます。

《ハンドストラップの取り付けかた》

図のように取り付けてください。

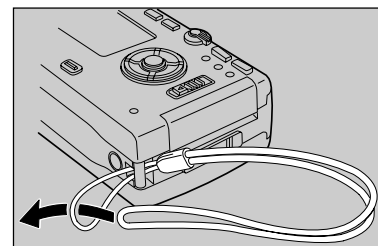
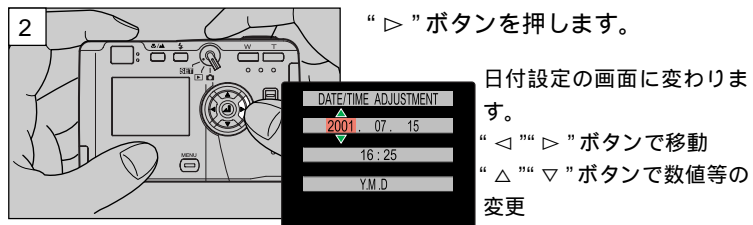
日付の設定

日付、時刻の設定と日付のならび順を設定します。

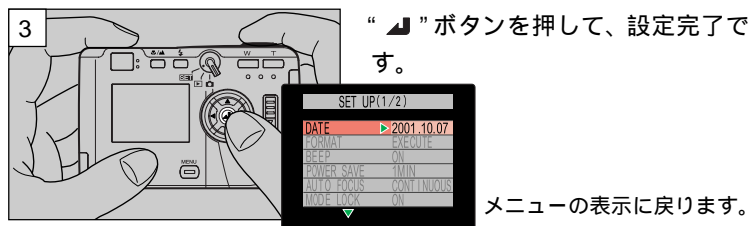
《操作》

モード切替レバーを“ SET ”に合わせます。

“ ▷ ”ボタンを押します。

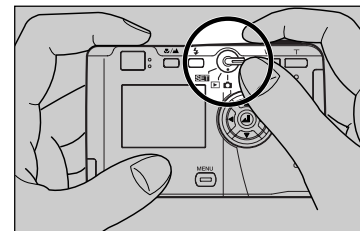
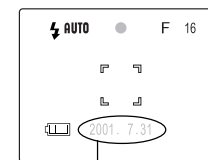
日付設定の画面に変わります。
“ ◁ ”“ ▷ ”ボタンで移動
“ △ ”“ ▽ ”ボタンで数値等の変更

操作の中止→“ **MENU** ”ボタンを押します。（設定内容は操作前のものに戻ります。）

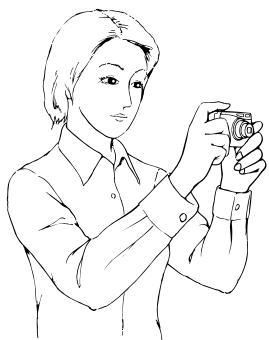
“ ◢ ”ボタンを押して、設定完了です。

メニューの表示に戻ります。

撮影の基本

液晶モニターを使って撮影する

正確な構図を決めるときは液晶モニターをお使いください。表示された通りの画像が撮影できます。

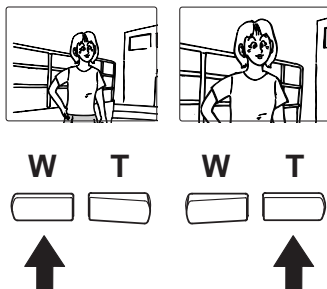
1. モード切替レバーを“📷”にして、カメラの電源をONにします。

電子音が鳴り数秒後、液晶モニターがつきます。

3秒間表示して消えます。

2.カメラぶれしないよう、図のように両手でしっかりとささえてください。

〈構えかたのコツ〉

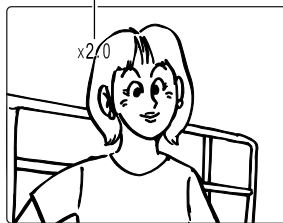
ピントが悪い画像の多くはカメラぶれが原因です。カメラぶれしないように自分にあったフォームを作る研究をしてください。

- 右人差し指をシャッターボタンの上にのせます。
- レンズやフラッシュ発光部に指がかからないようにします。
- 手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押します。
- 左手はカメラをしっかりささえます。
- 脇をしめてカメラを安定させます。

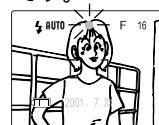
3. 液晶モニターを見ながら構図を決めます。

“ **T** ”ボタンを押すと被写体が拡大され、“ **W** ”ボタンを押すと縮小されます。

〈電子ズームでさらに拡大〉

“ **T** ”ボタンを押して最大まで拡大して一旦指を離し、再度“ **T** ”ボタンを押してください。1.3 倍、1.6 倍、2 倍の 3 段階で電子ズームの拡大ができます。

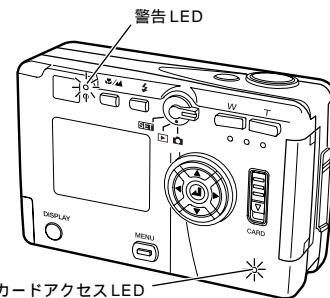
ここに拡大倍率が表示される

- 電子的な制御で拡大しているため、光学ファインダーでは確認できません。液晶モニターをONにしてお使いください。
- 液晶モニターが消えているとき、電子ズームはできません。
- 画質が［T］、［M］のとき、電子ズームはできません。［S］、［F］のとき、電子ズームをして撮影すると、画質は［N］になります。

4. シャッターボタンを押して撮影します。

① シャッターボタンを半押し（22ページ）して、合焦マークの点灯と電子音が“ ピッピッ ”と鳴ったらピント合わせ完了です。

② そのままさらに押して電子音が“ ピッ ”と鳴ったら画像を記録し始めます。

ピッ

一瞬黒くなった後、撮った画像が表示されます。

③ 記録中は警告LEDとカードアクセスLEDが点滅します。

警告LED

カードアクセスLED

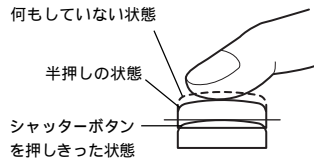
〈撮影時のご注意〉

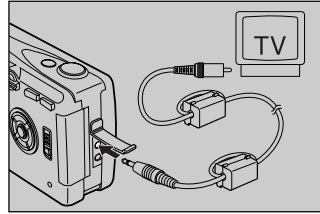
● 次の撮影は警告LEDの点滅が終わるまでお待ちください。

●"📷"撮影モードでお使いのとき、カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。このときはシャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すなどすると、撮影できる状態に戻ります。（詳しくは67ページをお読みください。）

● カードアクセスLED点滅中は、カードカバーを開けたり、メモリーカードを抜いたりしないでください。メモリーカードやデータを破損するおそれがあります。

〈半押しのこと〉

シャッターボタンを軽く押したとき、途中で止まるところがあります。これを半押しの状態といい、ピントと露出がオートセットされます。そのままさらに押すと画像の記録を開始します。

〈こんなこともできる〉

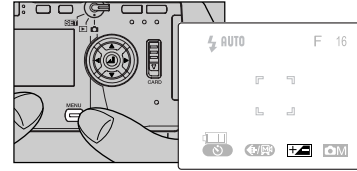
テレビ画面をビューファインダーにした撮影もできます。

テレビにつなぐと液晶モニターが消えてテレビ画面に被写体が表示されます。

● このとき、液晶モニターは消えています。

● 接続は付属のビデオケーブルをご使用ください。

動画を撮影する

15秒間の簡単な動画が撮れる機能です。動画記録時のモニター表示は次のようになります。

①" MENU "ボタンを押します。

② [⚡/🎥] を選び" ◢ "ボタンを押して [🎥] 動画に設定します。

③ シャッターボタンを押すと動画の記録を始め、15秒後に自動で記録を終了します。

記録可能な動画の撮影本数（1本当たり最大15秒間）

● 15秒以内で止めるときは、シャッターボタンを押します。

〈ご注意〉

● 動画撮影中、光学ズームはできますが、電子ズーム（21ページ）は使えません。

● パソコンで見るときは、Quick Time 4.1以上をインストールしてください。

光学ファインダーを使って撮影する

液晶モニターを OFF にして使うと電池の消費を節約できます。
液晶モニターのON/OFF→82ページ

1. モード切替レバーを“ 📷 ”にして、カメラの電源をONにします。

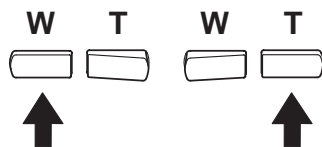
2.“ **DISPLAY** ”ボタンを押して、液晶モニターを消します。

3. カメラぶれしないよう、図のように両手でしっかりとささえてください。

光学ファインダーを覗いて構えているとき

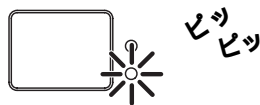
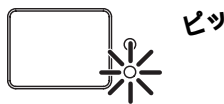
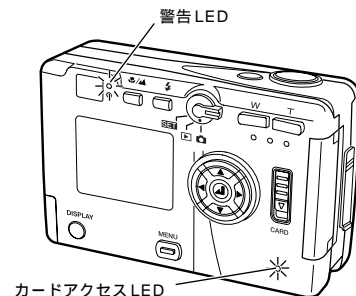
● 20ページの「構えかたのコツ」をご覧ください。

4. 光学ファインダーを見ながら構図を決めます。

“ **T** ”ボタンを押すと被写体が拡大され、“ **W** ”ボタンを押すと縮小されます。

〈光学ファインダーを使うときの注意〉

光学ファインダーを使ったときは、被写体との距離（撮影距離）にご注意ください。
撮影距離が近いほど、構図のズレ（パララックス）が起こります。
正確に構図を決めるためには液晶モニターを使った撮影をおすすめします。
● パララックス→31ページ参照

5. シャッターボタンを押して撮影します。

① シャッターボタンを半押しして、スタンバイ LED の点灯と電子音が“ ピッピッ ”と鳴ったらピント合わせ完了です。

② そのままさらに押して電子音が“ ピッ ”と鳴ったら画像を記録し始めます。

③ 記録中は警告LEDとカードアクセス LED が点滅します。

● 警告LEDの点滅が終わりましたら、次の撮影ができます。

撮影モードの機能を紹介します。
撮影状況に合わせてお使いください。

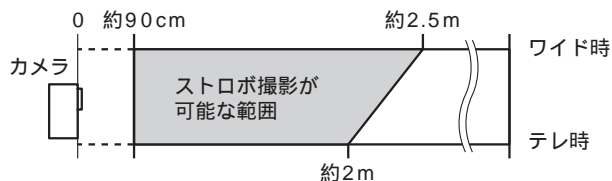
液晶モニターを消してお使いになる方へ

機能を設定するときや既に設定した機能を確認するときは、液晶モニターをつけてください。

フラッシュ撮影の機能を選ぶ

撮影状況に合わせてフラッシュ撮影の機能を使い分けてみましょう。

《フラッシュ光の届く距離》

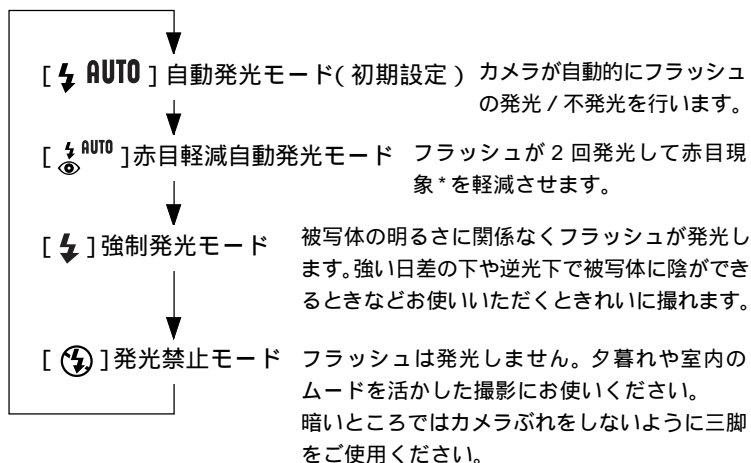
感度：標準時

《フラッシュ撮影モードの種類》

“ ”ボタンを押すと次のようにマークが変わります。

[AUTO] 自動発光モード（初期設定） カメラが自動的にフラッシュの発光／不発光を行います。

[AUTO] 赤目軽減自動発光モード フラッシュが 2 回発光して赤目現象＊を軽減させます。

[ ] 強制発光モード 被写体の明るさに関係なくフラッシュが発光します。強い日差の下や逆光下で被写体に陰ができるときなどお使いいただくときれいに撮れます。

[ ] 発光禁止モード フラッシュは発光しません。夕暮れや室内のムードを活かした撮影にお使いください。
暗いところではカメラぶれをしないように三脚をご使用ください。

＊ 赤目現象：人物をフラッシュ撮影すると、まれに瞳が赤く写ることがあります。これを赤目現象といい、眼球に入った光の反射（眼底反射）によって起こる現象です。

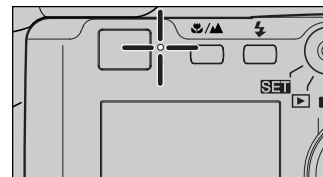
《操作》

① “ ”ボタンを押してフラッシュモードを選びます。

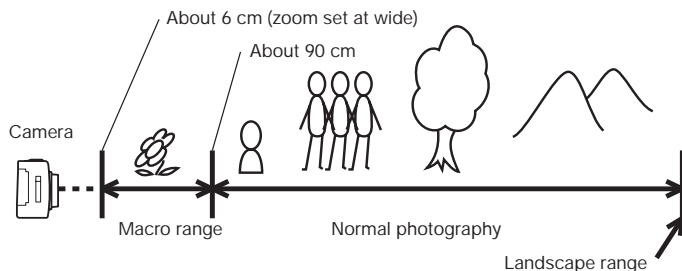
赤目軽減自動発光モードに設定したときの表示

② シャッターボタンを押して撮影してください。

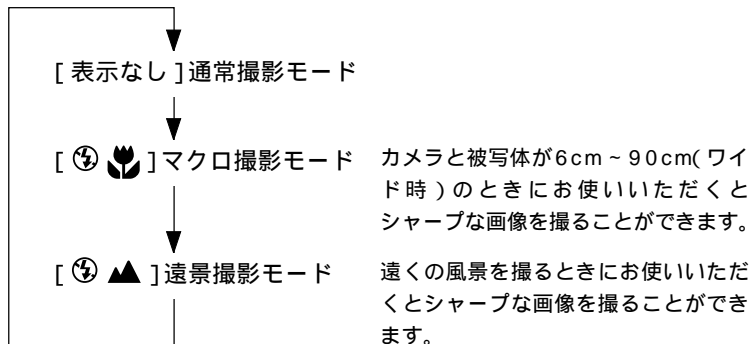
〈ご注意〉

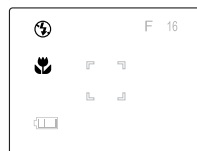
● シャッターボタンの半押し時に警告ＬＥＤが点滅するときは、シャッタースピードが遅くなります。カメラぶれを防ぐため、三脚等をご使用ください。

マクロ撮影と遠景撮影

撮影距離（被写体とカメラの距離）によってマクロ撮影と遠景撮影の機能を使い分けましょう。

《“ マクロ／遠景 ”の使いどころ》

“ / ”ボタンを押すごとに次のようにマークが変わります。

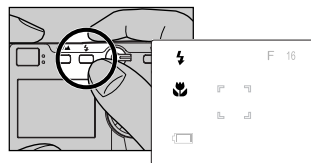
[ ] マクロ撮影モード：カメラと被写体が6cm〜90cm（ワイド時）のときにお使いいただくとシャープな画像を撮ることができます。

[ ] 遠景撮影モード：遠くの風景を撮るときにお使いいただくとシャープな画像を撮ることができます。

《操作》

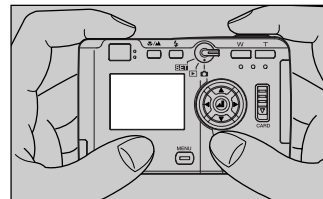
① “ / ”ボタンを押してモードを選びます。

マクロ撮影モードに設定したときの表示

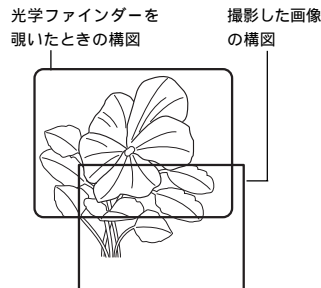
② シャッターボタンを押して撮影してください。

〈こんなこともできる〉

マクロ撮影モードのとき“ ”ボタンを押すとフラッシュ発光が可能になります。

ただし、被写体が近いのでフラッシュの光が強めにあたります。“ 露出補正 ”を使って明るさを調節してください。

〈ご注意〉

液晶モニターを消して光学ファインダーで撮影しているとき、マクロ撮影モード［ ］に設定すると、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターがつきます。

光学ファインダーでのマクロ撮影はパララックス * が起こりますので、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

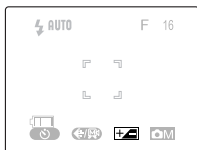
* パララックスとは、光学ファインダーを覗いたときの構図と撮影した画像の構図がズレてしまうことです。

セルフタイマーを使う

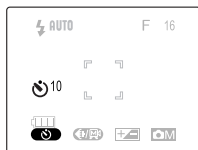
記念写真など自分も写りたいときや接写するときなどにお使いください。

[10]：シャッターボタンを押してから10秒後にシャッターが切れますので、自分もいっしょに写りたいときにお使いください。

[2]：シャッターボタンを押してから2秒後にシャッターが切れますので、マクロ撮影や長時間露光でのカメラぶれを防ぎたいときはこちらをお使いください。

《操作》

①" MENU "ボタンを押します。

②" ◁ "ボタンを押して [ ] を選びます。

③" "ボタンを押して、[10]（または [2]）を選びます。

セルフタイマー10秒を選んだときの表示

④" MENU "ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

● 通常撮影に戻すときも同じ操作です。

画質を選ぶ

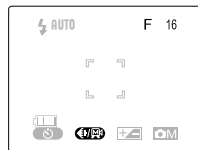
画質を変えたいときや動画を撮りたいときにお使いください。

画　質	画素数	容　量
[N] ノーマル	1024 × 768	約280KB
[F] ファイン	2048 × 1536	約1MB
[S] スーパーファイン	2048 × 1536	約2MB
[T] TIFF-RGB（ティフ・アールジービー）	2048 × 1536	約9.1MB
[ ] 動画	320 × 240	（最大15秒）

● 画質が" T "TIFF-RGBではカラーモードの白黒とセピアは選択できません。

● 容量はあくまでも目安です。被写体の絵柄によってファイルサイズは変わります。

《操作》

①" MENU "ボタンを押します。

②" ◁ "ボタンを押して [ ] を選びます。

③" "ボタンを押して、希望の画質または動画を選びます。

ノーマルを選んだときの表示

④" MENU "ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

《画質を選ぶときの目安》
画質を重視する場合は［**S**］または［**F**］、テレビで見たい場合は［**F**］または［**N**］、パソコンなどのホームページ作成など小さい画像サイズでよい場合は［**N**］にして撮影してください。拡大するなど特に画質を重視する場合は［**S**］または非圧縮形式の［**T**］をお使いください。
なお、［**T**］は画像サイズが約9.1MBとかなり大きくなりますので、メモリーカードの容量にご注意ください。

露出を補正する

画像の明るさを少し変えたいときにお使いください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［+/-］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って、希望の補正値を選び、“ ◢ ”ボタンを押します。

+0.7を選んだときの表示

④“ **MENU** ”ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

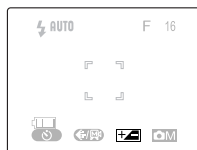
⑤シャッターボタンを押して撮影してください。

● フラッシュ撮影のとき、露出補正の値は、液晶モニターの表示にかかわらず、±1.0までになります。

カラーモードで白黒やセピアの画像を撮影する

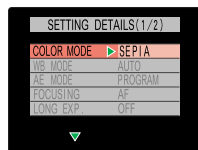
通常のカラー撮影の他に、白黒とセピアが選べます。
● 画質が ［T］ TIFF-RGBのとき、白黒とセピアは選択できません。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［📷M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③［**カラーモード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**セピア**］（または［**白黒**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押して、メニュー表示を消します。

セピアを選んだときの表示

⑦シャッターボタンを押して撮影してください。

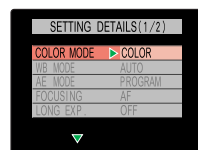
ホワイトバランスを調節する

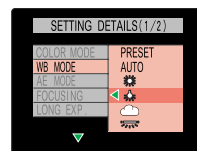
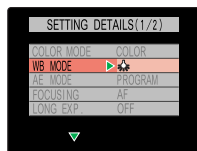
画像の色調は光源の種類により変化します。撮影状況に合わせて次のモードを選んでください。

［**AUTO**］(初期設定) カメラがホワイトバランスを自動で設定します。
［☀］ 太陽光
［💡］ 白熱電球
［☁］ 曇天
［蛍光灯マーク］ 蛍光灯
［**プリセット**］ ホワイトバランスをマニュアルで設定したいときに使います。設定のしかたは 39 ページをご覧ください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［📷M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**WB モード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［💡］（または［☀］、［☁］、［蛍光灯マーク］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押して、メニュー表示を消します。

[ ] を選んだときの表示

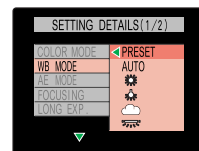
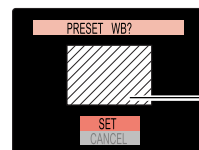
⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

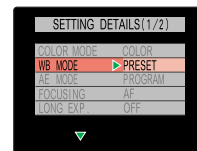
《プリセットの設定と撮影の操作》

ホワイトバランスをマニュアルで設定したいときは、この機能をお使いください。
被写体の色の基準となる白い部分を任意に設定して撮影することができます。もっと厳密に設定する場合は、白い用紙などを使ってください。

● プリセットは、電子ズームをしていない状態で行ってください。

《操作》

① ［**プリセット**］を選んで“ ”ボタンを押します。

② ホワイトバランスの基準となる被写体にカメラを合わせます。

この範囲いっぱいにホワイトバランスの基準となる白い部分を入れてください。

③“ ”ボタンを押すと設定完了です。

④“ **MENU** ”ボタンを２回押して、メニュー表示を消します。

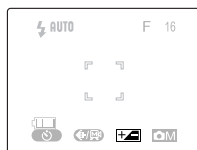
プリセットしたときの表示

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

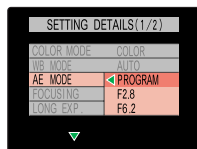
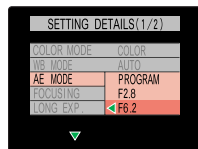
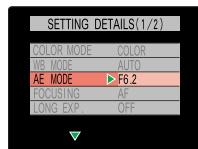
絞り優先を設定する（AE モード）

初期設定では、カメラが自動的に絞りとシャッタースピードを設定するプログラムモードに設定されています。
AE モードにして、絞り値を F2.8 または F6.2（共にワイド時）に固定すると、カメラが被写体に合ったシャッタースピードを設定します。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［📷M］を選び“ ⏎ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**AE モード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**F6.2**］（または［**F2.8**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押して、メニュー表示を消します。

F6.2 を選んだときの表示

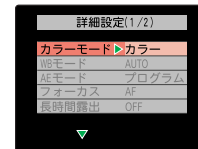
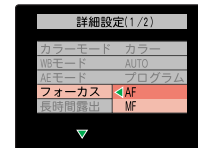
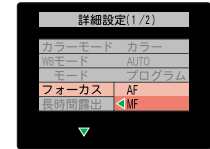
⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

マニュアルフォーカスで撮影する

AF（オートフォーカス）とMF（マニュアルフォーカス）が選べます。（初期設定はAFが設定されています。）MFに設定すると、フォーカスゲージが表示されます。撮影距離を指定して撮影してください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［M］を選び“ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**フォーカス**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**MF**］（または［**AF**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押してメニュー表示を消します。

ＭＦを選んだときの表示

⑦“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って撮影距離を指定して、撮影してください。

● 撮影距離の９０cmではピントが合わない場合があります。

シャッタースピードを遅くする

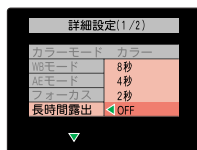
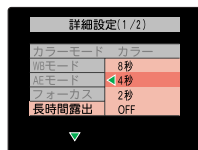
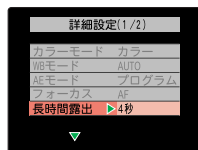
シャッタースピード（シャッターが開いている時間）を遅くすると、夜景や室内のムードを活かした画像が撮れます。8 秒間、4 秒間、2 秒間のシャッタースピードから選んでください。

● シャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれを防ぐため、三脚を使用してください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［ M］を選び“ ”ボタンを押します。

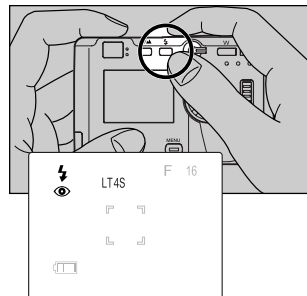
③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**長時間露出**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**4 秒**］（または［**2 秒**］、［**8 秒**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを 2 回押してメニュー表示を消します。

4秒［**LT4S**］を選んだときの表示

⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

● ［ ］露出補正の設定はできません。

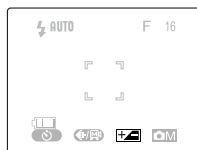
こんなこともできる

“ ”ボタンを押すと長時間露出に加えて、赤目軽減強制発光モードも設定できます。

夕景や夜景などをバックにして人物を撮るときに活用できます。

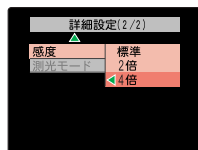
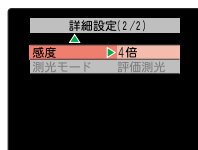
感度を 2 倍、4 倍にする

このカメラではフィルムの ISO 感度に相当する感度（標準、2 倍、4 倍）が選べます。
少し明るさが足りない場面などにご活用ください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［ M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**感度**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**4 倍**］（または［**2 倍**］、［**標準**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを2回押して、メニュー表示を消します。

4 倍を選んだときの表示

⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

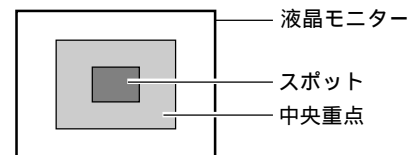
測光方式を選ぶ

このモードでは露出を合わせるときの方式を選ぶことができます。
被写体に合わせて次の 3 点からお選びください。

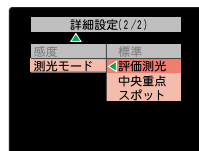
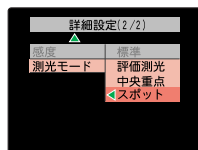
［**評価測光**］（初期設定）“ 表示なし ”　評価測光は、画面全体を分割して測光し、得られた測光値から被写体の条件に最適な露出値を決めます。一般的な撮影や明暗のあるさまざまな場面で正確な露出が得られます。

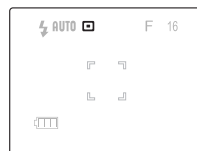
［**中央重点**］“ □ ”　画面全体の中央部（□）の測光値から露出値を決めます。特に画面中心部の被写体の明るさにあわせて撮影する場合に適しています。

［**スポット**］“ ▣ ”　このモードでは画面全体の中心部（■）の測光値から露出値を決めます。画面全体の中から、一部分の明るさにあわせて撮影する場合に適しています。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［📷M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**測光モード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**スポット**］（または［**中央重点**］、［**評価測光**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押して、メニュー表示を消します。

スポットを選んだときの表示

⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

その他の操作

《フォーカスロック》

シャッターボタンを半押しするとピントと露出がオートセットされます。

撮影中ピントがうまく合わないときなどは撮影モードの機能と合わせてこの操作もご活用ください。

《操作》

① 被写体をフォーカスフレームに合わせてシャッターボタンを半押しします。

② 半押ししたままカメラをずらして構図を決めたら、シャッターボタンをさらに押します。

《撮影モードマークのON/OFF》

液晶モニターに表示されているマークを一時的に消すことができます。

● フラッシュモード、マクロ／遠景撮影モード、セルフタイマーのマークは消えません。

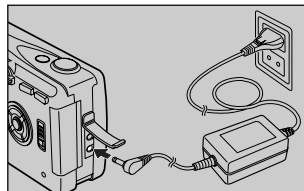
《操作の例》

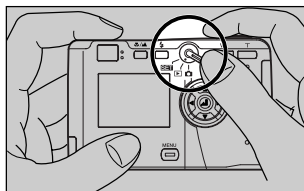
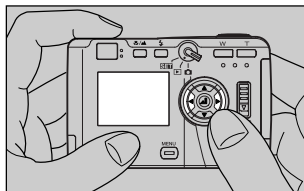
例えば、次のように撮影機能が設定されているとき、“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを押すとマークが一時的に消え、構図が決めやすくなります。

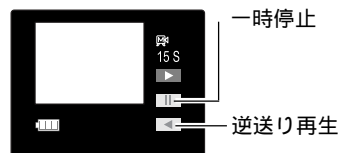
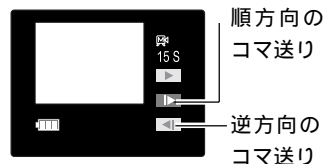
再び“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを押すと元の表示にもどります。

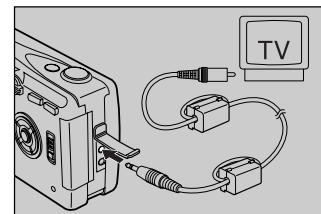
再生の基本

液晶モニターで再生する

長時間使用する場合は、ACアダプターをつないでご使用ください。

● 撮影済みのメモリーカードが入っていることをご確認ください。

モード切替レバーを“ ▶ ”にして、カメラの電源をONにします。

液晶モニターに画像が再生されます。撮影した順に、“ ▷ ”ボタンで順送り、“ ◁ ”ボタンで逆送りができます。

動画を再生する

動画を表示させたら、“ △ ”ボタンで［▶］を選び、“ ◢ ”ボタンを押すと動画が再生されます。

一時停止するとコマ送りができます。

〈こんなこともできる〉

テレビ画面で、撮影した画像が見られます。

● この時、液晶モニターは消えています。

いろいろな再生と消去のしかた

画像の順／逆送りを早くする（サムネイル再生）

画像をサムネイルで再生して、順／逆送りを早くすることができます。
サムネイル:本来の画像を縮小表示させたイメージ画像で、このカメラでは次のように表示されます。

① モード切替レバーを“ ▶ ”にして、“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを押したままにします。

② しばらくすると、画像がサムネイルで次々に表示されます。

再生画像のクローズアップ（2 倍）

再生した画像を 2 倍に拡大することができます。

《操作》

① 拡大したい画像を表示します。

②“ **T** ”ボタンを押します。

画像の中央が 2 倍に拡大されます。

③“ ◁/▷/△/▽ ”ボタンを使って、拡大したい領域を選びます。

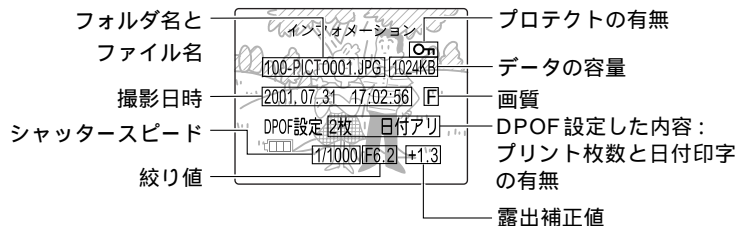
● 画像を順／逆送りするときは、“ **W** ”ボタンを押して元の表示状態に戻してください。

撮影時の情報を表示させる（インフォメーション表示）

画像を撮影したときに設定した内容を表示することができます。
この表示をインフォメーション表示といいます。

《操作》

① インフォメーション表示したい画像を表示します。

②“ △ ”ボタンを押します。

③“ △ ”ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

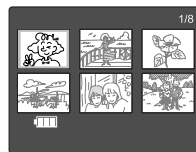
●“ ▽ ”ボタンを使ってもインフォメーションが表示できます。

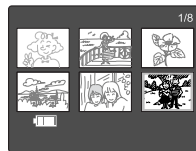
マルチ表示（画像の一覧表示）

液晶モニターに６画像づつ再生します。たくさんの画像を選ぶときに便利な機能です。
また、この機能は他の再生メニューと併用して使うこともできます。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ◢ ”ボタンを押します。

マルチ表示。

③“ △／▽／◁／▷ ”ボタンを使って画像を選びます。

④“ ◢ ”ボタンを押すと選んだ画像が通常表示（シングル表示）になります。

こんなことも…

マルチ表示中に“ **MENU** ”ボタンを押すと他の再生機能（54～57、59～61ページ）も使えます。
“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンで再生機能を選んでください。

- メニュー表示中、画像の選択はできません。“ **MENU** ”ボタンを押してメニュー表示を消すと画像の選択ができます。
- ［**回転**］は設定できません。

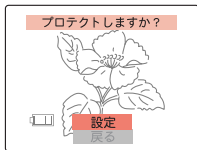
画像をプロテクトする

大切な画像を間違って消さないようにする機能です。
この機能は、複数の画像を削除するとき、全消去（56ページ）の機能と合わせて使うと便利です。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［**プロテクト**］を選びます。

②“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って画像を選びます。

④“ ◢ ”ボタンを押すと画像のプロテクト完了です。

● 解除する場合はもう一度、“ ◢ ”ボタンを押します。

プロテクトを続ける場合は③～④の操作を繰り返してください。

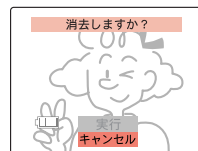
操作の中止や終了は、［**戻る**］を選んで“ ◢ ”を押すか、“ **MENU** ”ボタンを押してください。

● 設定後、プロテクトされた画像を確認するときはインフォメーション（52ページ）を表示するか、マルチ再生（53ページ）で［O┳］のマークを確認してください。

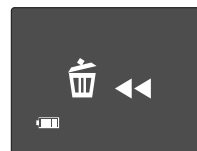
画像を選んで消去する

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［**消去**］を選びます。

②“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って画像を選びます。

④“ △ ”ボタンを使って［**実行**］を選びます。

⑤“ ◢ ”ボタンを押すと画像が消去されます。

● 消去が完了すると消去した画像の次の画像が表示されます。

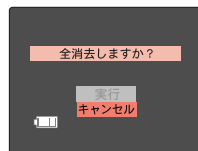
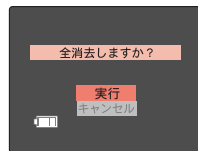
消去を続ける場合は、③～⑤の操作を繰り返してください。

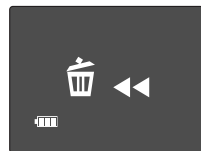
操作の中止や終了は、［**キャンセル**］を選んで“ ◢ ”を押すか、“ **MENU** ”ボタンを押してください。

画像を全て消去する

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ◁ ” または“ ▷ ”ボタンを使って[**全消去**] を選びます。

②“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”ボタンを使って [**実行**] を選びます。

● [**キャンセル**]→“ ◢ ”ボタンで操作の中止。

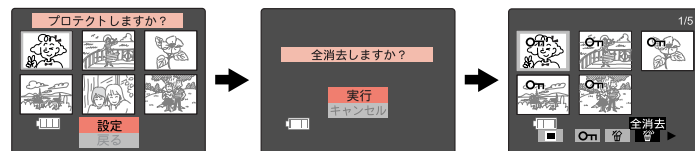
④“ ◢ ”ボタンを押すと画像がすべて消去されます。

消去中の表示

⑤ 消去が終わると[**画像がありません**]のメッセージまたはプロテクトされていた画像が表示されます。

《複数の画像を消去するとき》

残しておきたい画像と、消去したい画像が複数枚あるときは、プロテクトと全消去を組み合わせて使うと便利です。

例）画像 30 枚中、5 枚を残して他を消去する場合。

● 表示はマルチ表示を使っています。

まず、残しておきたい画像にプロテクトをかけます。

全消去を実行します。

プロテクトをかけた画像だけが残ります。

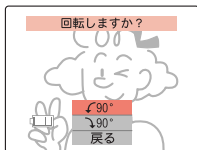
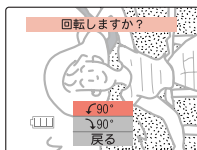
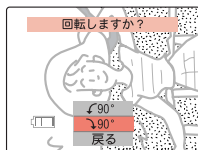
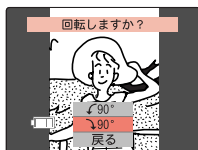
画像を回転する

画像を右９０°または左９０°に回転します。

● マルチ再生とプロテクトされているとき、この機能は操作できません。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［**回転**］を選びます。

②“ ⏎ ”ボタンを押します。

③“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って画像を選びます。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［↷ ９０°］(または［↶ ９０°］)を選びます。

⑤“ ⏎ ”ボタンを押すと画像が回転します。

操作の中止や終了は、［**戻る**］を選んで“ ⏎ ”を押すか、“ **MENU** ”ボタンを押してください。

自動再生する（スライドショー）

画像を一定時間で次々に表示する機能です。

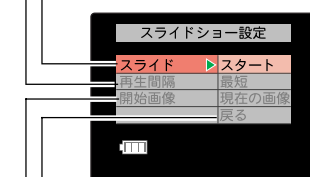
《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［**スライドショー**］を選びます。

②“ ⏎ ”ボタンを押します。“ △/▽/◁/▷ ”ボタンを使って再生の間隔や開始画像を設定します。

画像を自動再生する間隔を［**最短**］・［**10秒**］・［**15秒**］・［**30秒**］からお選びください。

スライドショーを開始します。

スライドショー設定
スライド ▶ スタート
再生間隔 最短
開始画像 現在の画像
戻る

この操作を中止してメニュー表示に戻ります。

スライドショーを始める画像を選択します。

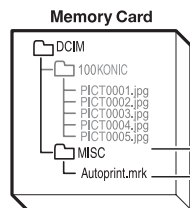
［**現在の画像**］：この操作を行う前に表示していた画像から始めます。

［**最初の画像**］：最初に記録した画像から始めます。

③［**スライド**］を選んで“ ▷ ”または“ ⏎ ”ボタンを押すと、スライドショーが始まります。

④スライドショーの終了は、“ **MENU** ”ボタンを押します。

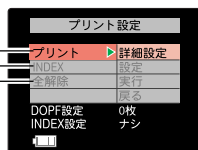
DPOFの設定

DPOFとは、デジタルカメラで撮影した画像を家庭用プリンタやラボプリントサービスでプリントするためのフォーマットです。
プリントする枚数の指定や日付の印字指定などの簡単な設定ができます。ご使用のプリンタ、ラボプリントサービスがDPOFサービスに対応しているかご確認ください。この機能については、お使いのDPOF対応プリンターの取扱説明書も合わせてお読みになってください。

DPOF設定したデータは、画像データとは別に保存されます。

《操作》

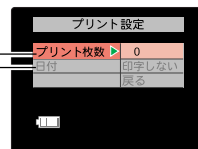
① プリント設定したい画像を表示します。

②“ **MENU** ”ボタンを押し、“ ▷ ”ボタンを使って［**プリント**］を選びます。

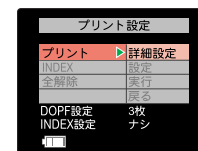
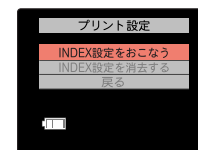
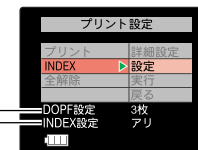
③“ ◢ ”ボタンを押します。

プリント、INDEXの設定内容を解除するときに使います。

インデックスプリントの要／不要を設定します。

枚数と日付印字の要／不要を設定します。

④“ ▷ ”ボタンを押してプリント詳細設定のメニューを表示します。

プリント撮影日を印字するか、しないかを設定します。

プリント枚数を設定します。

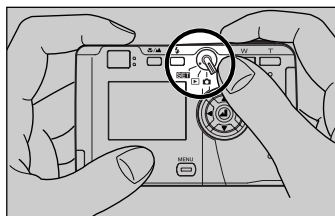
⑤ 設定が終わったら、［**戻る**］を選んで“ ◢ ”ボタンを押します。

⑥ インデックスをプリントするときは、［**INDEX**］→“ ▷ ”ボタン→［**INDEX 設定をおこなう**］→“ ◢ ”ボタンの順で設定します。

⑦［**戻る**］を選んで“ ◢ ”ボタンを押して設定完了です。

インデックスプリントの有無

プリント設定した総枚数

● 画像ごとの設定枚数はインフォメーション（52ページ）でご確認ください。

〈ご注意〉

● DPOF設定したデータはメモリーカードに保存されますので、メモリーカードの残り容量によっては、DPOF設定ができないことがあります。
● メモリーカード上にDPOF設定された画像データをパソコンで消去等しないでください。
● ラボプリントサービスに出すときは、インフォメーション表示（52ページ）でプリント枚数をご確認ください。
● インデックスプリント設定後、新たに撮影した画像はインデックスに含まれません。再度インデックスの設定をし直してください。

セットアップの使いかた

1. モード切替レバーを“ SET ”にして、カメラの電源を ON にします。

2. セットアップのメニューが表示されます。

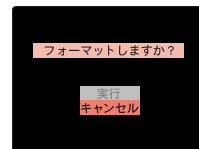
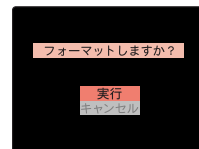
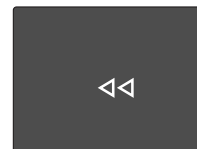
メモリーカードのフォーマット

メモリーカードに記録されている画像やフォルダーをすべて削除します（メモリーカードの初期化）。
プロテクトしてある画像も消えてしまうので、ご注意ください。

● SD メモリーカードがライトプロテクトされているときは実行できません。

《操作》

①“ ▽ ”ボタンを押して［**フォーマット**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”ボタンを押して［**実行**］を選びます。

④“ ◢ ”ボタンを押すとフォーマットを始めます。

● フォーマットを開始すると中止はできません。

⑤ セットアップ機能のメニューが表示されて、フォーマット完了です。

《消去とフォーマットの違い》

画像を消去またはフォーマットすると､それぞれ次のようになります。

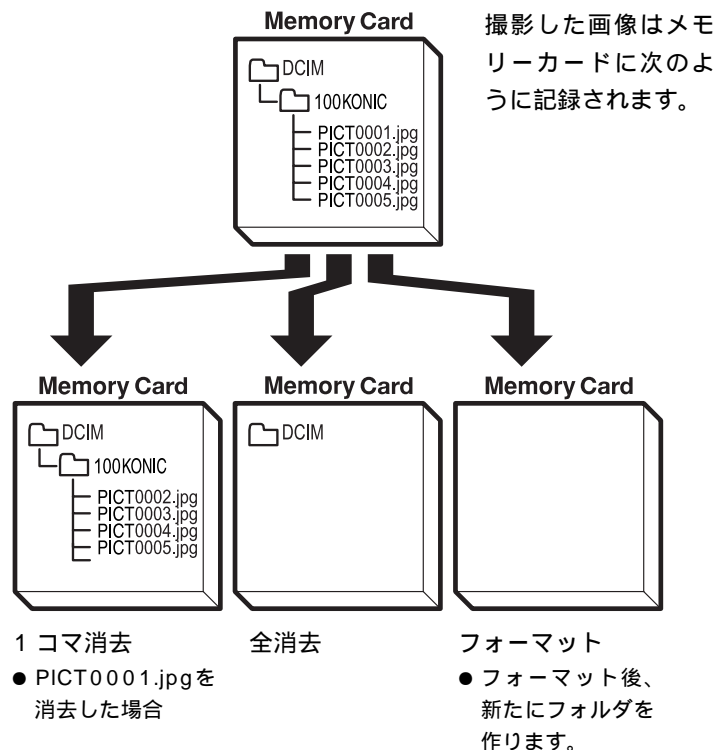
撮影した画像はメモリーカードに次のように記録されます。

1 コマ消去

● PICT0001.jpgを消去した場合

全消去

フォーマット

● フォーマット後、新たにフォルダを作ります。

電子音のON/OFF

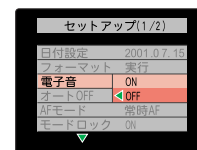
シャッターボタンを押したときの電子音を ON または OFF にできます。

● 警告音と電源を ON にしたときの動作音は OFF にできません。

《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**電子音**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**OFF**］（または［**ON**］）を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ⏎ ”ボタン）を押して、設定完了です。

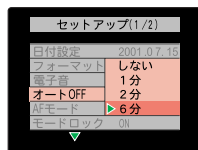
オートパワー OFF（節電機能）の設定

電源を ON にした状態で、そのまましばらく放置しておくと自動的に電源が OFF になります。
この機能をオートパワー OFF といい、ここではその電源が OFF になるまでの時間を設定できます。

《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**オート OFF**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**6 分**］（または［**1 分**］、［**2 分**］、［**しない**］）を選びます。

● ［**しない**］は、オート OFF（節電機能）を解除します。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ◢ ”ボタン）を押して、設定完了です。

〈“ 📷 ”撮影モードでお使いのときのご注意〉

“ 📷 ”撮影モードでお使いのとき、“ オート OFF ”で設定した時間（または“ しない ”）により、カメラは次のように作動します。

1.“ オート OFF ”を“ 1 分 ”、“ 2 分 ”または“ 6 分 ”に設定したとき

カメラに何もしないで設定した時間を超えて放置すると、カメラは 2 分間、休止の状態になります。
このときもシャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すなどすると、撮影できる状態に戻りますが、この 2 分を越えると電源が OFF になります。

2.“ オート OFF ”を“ しない ”に設定したとき

カメラに何もしないで 6 分を超えて放置すると、カメラは休止の状態になります。
このとき電源は OFF にならず、休止の状態が続きます。シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すなどすると、撮影できる状態に戻ります。

1 分　1 分｜2 分

2 分　2 分｜2 分

6 分　6 分｜2 分

しない　6 分｜

■ ：電源 ON で撮影モードになっていて、カメラに何もしないで放置している状態

■ ：休止の状態。カメラは、レンズが出た状態で止まっているが、シャッターボタンの半押しや他のボタンを押すことで撮影できる状態に戻る。

□ ：電源 OFF の状態。

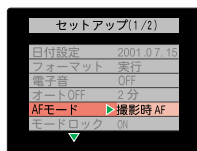
オートフォーカスの方式を選ぶ（AFモード）

撮影中、常にピント合わせを行っているのが［**常時 AF**］、シャッターボタンを半押ししたときピント合わせが行われるのが［**撮影時 AF**］です。
それぞれ電力消費量やシャッターボタンを押してから撮影をはじめるまでの時間に次のような関係があります。
撮影条件などに合わせてご使用ください。

［**常時 AF**］：
カメラが撮影可能状態の間、常にレンズが動いてピント合わせをしているので、シャッターボタンを押してから撮影開始までの時間が短くなります。その反面、電力消費量は多くなります。

［**撮影時 AF**］（初期設定）：
シャッターボタンを押したとき（半押し）のみピント合わせしますので、シャッターボタンを押してから撮影開始まで少し時間がかかります。その反面、電力消費量は抑えられます。

《操作》

①“ ▽ ”ボタンを押して［**AF モード**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ ▽ ”ボタンを押して［**常時AF**］（または［**撮影時AF**］）を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ”ボタン）を押して、設定完了です。

撮影モードロックの ON/OFF

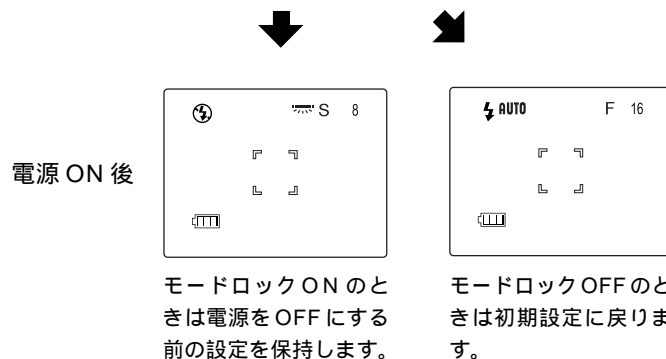
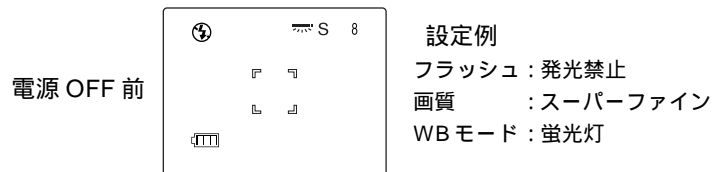
カメラの電源を OFF にして再度 ON にしたとき、電源を OFF にする直前に設定した機能を保持するか、初期設定の表示に戻すかを選ぶことができます。

● 設定した機能を保持することをモードロックとよびます。

《モードロック ON/OFF 時の表示の違い》

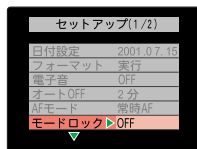
電源 OFF 前

〈設定例〉
フラッシュ：発光禁止
画質　　　：スーパーファイン
WB モード：蛍光灯

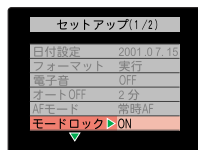
電源 ON 後

モードロック ON のときは電源を OFF にする前の設定を保持します。

モードロック OFF のときは初期設定に戻ります。
〈初期設定の機能とその詳細〉→ 77 ページ

《操作》

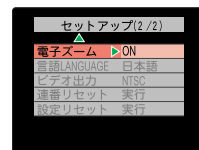
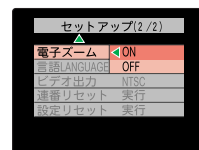
①“ ▽ ”ボタンを押して［**モードロック**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

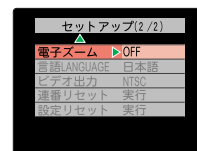
③“ ▽ ”ボタンを押して［**ON**］（または［**OFF**］）を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ⏎ ”ボタン）を押して、設定完了です。

電子ズームのON/OFF

撮影時、“ **T** ”ボタンを押してテレ側にいっぱいズームした後、再度“ **T** ”ボタンを押すと電子ズームが始まります。（21 ページ）
電子ズームを使う設定は［**ON**］を、電子ズームの使用禁止に設定するときは［**OFF**］を選んでください。

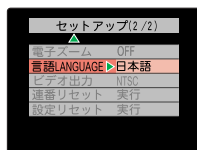
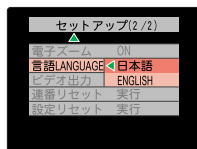
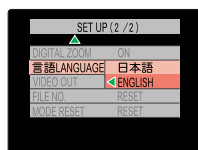
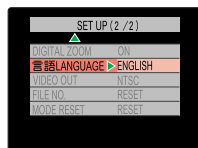
《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**電子ズーム**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**OFF**］（または［**ON**］を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ⏎ ”ボタン）を押して、設定完了です。

表示言語を切り替える

このカメラの言語表示を日本語または英語に切り替えます。

《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**言語LANGUAGE**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**ENGLISH**］（または［**日本語**］）を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ◢ ”ボタン）を押して、設定完了です。

ビデオ出力方式を選ぶ

海外旅行など、滞在先のテレビで画像を再生するとき、お使いになる地域によって画像が再生できないことがあります。
このようなときは、このモードを使ってビデオ出力方式を切り替えてください。

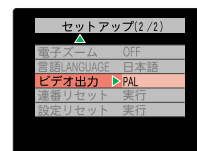
● 初期設定はNTSCです。

《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**ビデオ出力**］を選びます。

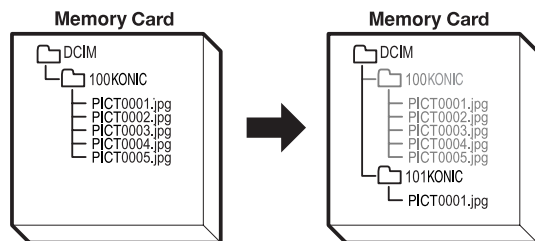
②“ ▷ ”ボタンを押します。

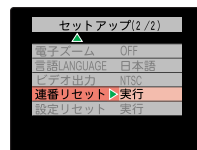
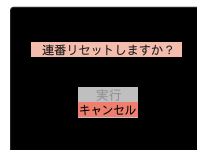
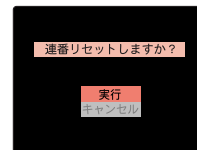
③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**PAL**］（または［**NTSC**］）を選びます。

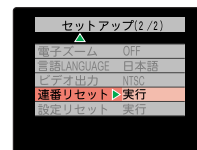
④“ ◁ ”ボタン（または“ ◢ ”ボタン）を押して、設定完了です。

メモリーカードに新しいフォルダーを作る

この機能を実行すると、フォルダを新規に作成して、そこに新たな画像データを記録します。(連番リセットとよびます。)
撮影場面が変わるときなど画像データの記録管理に便利です。

《連番リセット実行前と後の記録状態》

連番リセット前
撮影した順に番号をファイル名につけて記録されます。
連番リセット後
新たにフォルダが作られ、“ PICT0001.jpg ”から順に新しいフォルダに記録されます。

《操作》

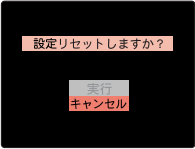
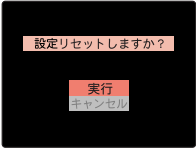
①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**連番リセット**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”ボタンを使って［**実行**］を選びます。

④“ ⏎ ”ボタンを押して、設定完了です。

撮影モードとセットアップモードを初期設定に戻す

モードロックがONのときに設定した撮影モードとセットアップモード（[**日付設定**]、[**ビデオ出力**]、[**言語LANGUAGE**] を除く）を初期設定に戻すときに使います。

《操作》

①“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**設定リセット**］を選びます。

②“ ▷ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**実行**］を選びます。

④“ ◁ ”ボタン（または“ ↵ ”ボタン）を押して、設定完了です。

〈初期設定時の機能とその詳細〉

“ ”撮影モード

フラッシュ	：**自動発光**
マクロ／遠景	：**なし**
セルフタイマー	：**なし**
露出補正	：**なし**
長時間露光	：**なし**
画質	：**F**
カラーモード	：**カラー**
WB モード	：**AUTO**
AE モード	：**プログラム**
感度	：**標準**
フォーカス	：**AF（オートフォーカス）**
測光モード	：**評価測光**

“ SET ”セットアップモード

電子音	：**ON**
AF モード	：**撮影時 AF**
モードロック	：**ON**
電子ズーム	：**ON**
オート OFF	：**2 分**

その他

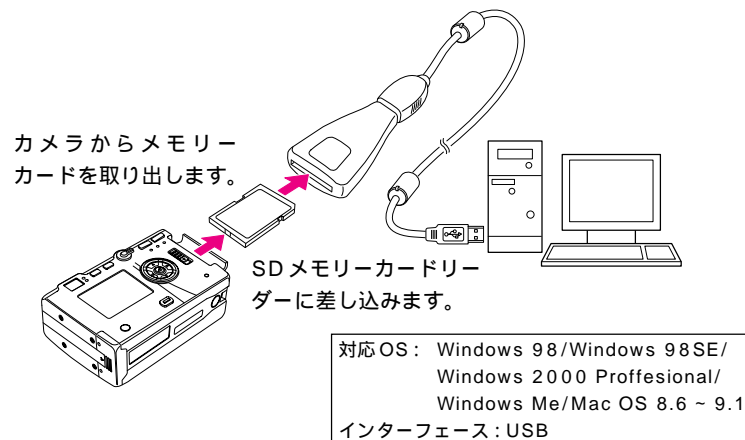
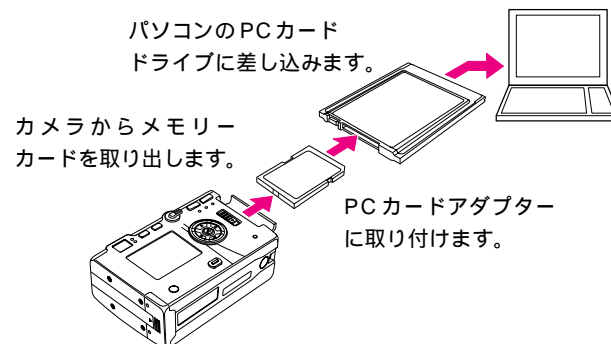
明暗調整	：**標準**

画像を他の機器に送る

パソコンに送る

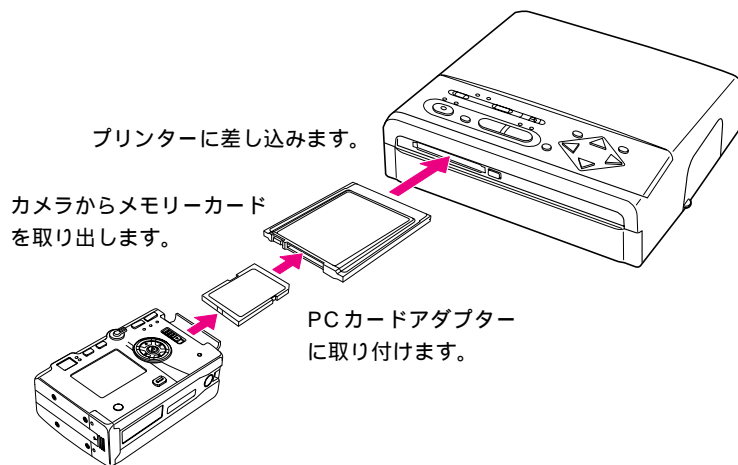
別売りのSDカードリーダーや市販のPCカードアダプターを使って、パソコンで画像を表示させたり、コピー（移動）や削除することができます。

● **SD メモリーカードリーダー（型番：DR-CR1）の場合**

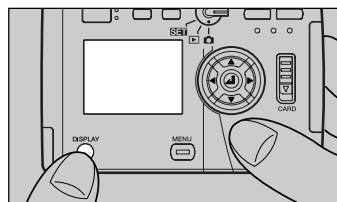
対応OS： Windows 98/Windows 98SE/
Windows 2000 Proffesional/
Windows Me/Mac OS 8.6～9.1
インターフェース：USB

● **PC カードアダプター（市販）の場合**

● メモリーカード内の画像データの取扱いは、パソコンの操作で行います。

プリンターに送る

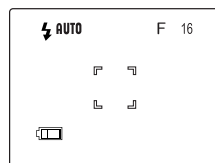
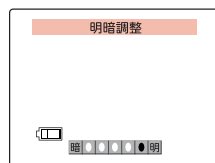
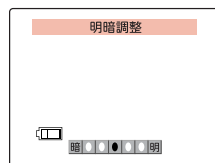
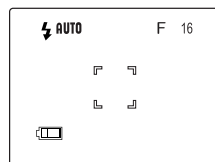
DPOF 設定（60 ページ）で設定した内容で画像をプリントアウトすることができます。

- 市販のDPOF対応のプリンタのみ使用可能です。
  操作について詳しくは、お使いのDPOF対応プリンターの取扱説明書をご覧ください。

その他

液晶モニターについての操作

《液晶モニターのON/OFF》

撮影モードのとき、“ **DISPLAY** ”ボタンを押すと液晶モニターの表示を出したり、消したり出来ます。

- 消費電力の節約のため、こまめに消すことをおすすめします。

《明るさの調節》

モード切替レバーをスライドして“ ”または“ ▶ ”に合わせます。

“ ”ボタンを押します。

“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを押して明るさを調節します。

“ ”ボタンを押すか、3秒以上放置すると元の表示に戻ります。

- テレビ接続時、明るさ調整はできません。

故障とお考えになる前に・・・

操作	現象	原因	対策
撮影	撮影可能枚数 0 点灯	メモリーカードの記録容量が足りない。	新しいメモリーカードを入れてください。または、不要な画像を消去してください。
	液晶モニター表示“ カードがありません ”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
	液晶モニター表示“ カードエラーです ”	他の機種でフォーマットされたメモリーカードを使っている。	カメラでメモリーカードのフォーマットをしてください。(→ 63 ページ)
	液晶モニター表示“ ライトプロテクト ”	SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチがロック（書込禁止）されている。	SD メモリーカードのロックを解除するか、他のメモリーカードをご使用ください。
	カードアクセス LED	画像の記録中。	一旦シャッターボタンから指を離してお待ちください。
	警告 LED 遅い点滅	フラッシュ充電中	
	警告 LED 速い点滅	カメラぶれ警告。シャッタースピードが遅くなります。	三脚などでカメラを固定して撮影してください。
	撮影したのに撮影可能枚数が変わらない。	撮影した画像のファイルサイズが小さかった。	画質モードや被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。
	緑 LED 点滅	ピントが合っていません。（撮影はできます）	フォーカスロックを使って被写体のコントラストの強いところにピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。(→ 47 ページ)
	合焦マーク点滅		
	液晶モニターが消えている。	カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。	シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。“ オートOFF ”で設定した内容によって異なりますので、詳しくは67ページをご覧ください。

操作	現象	原因	対策
再生	再生画面にノイズがあり見づらい。	テレビもしくはカメラの近くに磁石等、磁気を発生するものがある。	カメラを磁気を発生するものから遠ざけてください。
	テレビに映らない。	カメラとテレビが正しく接続されていない。	カメラとテレビを正しく接続してください。
		ビデオ出力方式がテレビと合っていない。	ビデオ出力方式をテレビと合わせてください。(→73ページ)
	液晶モニター表示“カードエラーです”	ファイル形式が違う画像ファイルがメモリーカードに記録されている。	パソコンで再生してください。
		このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のメモリーカードである。	
		カードが正しく装着されていない。	メモリーカードを装着し直してください。
	液晶モニター表示“画像がありません”	メモリーカードに何も記録されていません。	撮影済みのメモリーカードを入れてください。
	液晶モニター表示“カードがありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
	画像の回転やDPOF設定ができない。	SDメモリーカードがライトプロテクトのロック（書込禁止）されている。	SDメモリーカードのロックを解除してください。(→17ページ)
消去	画像が消去できない。“O⊓”点灯	画像がプロテクトされている。	プロテクトを解除してください。(→54ページ)

操作	現象	原因	対策
消去	画像が消去できない。	他の機器で記録したデータが入っている。	このカメラでは消去できません。但し「フォーマット」を利用して全画像を消去することはできます。
	画像を消去したのに撮影可能枚数が増えない。	消去した画像の容量が少なかった。	画質モードや被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。
充電	充電ができない。	リチウムイオンバッテリーパックが入っていない。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れてください。
	充電ができない。または、中断してしまう。警告LED遅い点滅	周囲の温度が高すぎるまたは低すぎるため、充電保護回路が働いて充電を停止した。	周囲の温度が＋10℃～30℃の範囲で充電してください。(実際は＋5℃～40℃でも可能ですが、充電時間が多少遅くなります。)
	液晶モニターに何もでてこない。	電池切れ、または入っていない。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れて充電してください。
その他	液晶モニターに何もでてこない。	オートOFF機能で電源がOFFになった。(→66ページ)	再度メインスイッチを押してONにしてください。
	カメラが熱くなる。	液晶モニター使用時には大電流が流れます。そのため長時間使用すると熱くなります。	故障ではありませんが、しばらく休止してからお使いください。
	液晶モニターにERORR-xxが表示される。	きわめて希に、外部の強力な静電気などに対して作動しなくなることがあります。	リチウムイオンバッテリーパックを一旦抜いて、入れ直してください。
	液晶モニターに「ERORR-99」が表示される。	車の中に置くなど周囲の状況によりカメラが熱くなった。	「ERORR-99」はカメラの温度が下がるまで表示されます。電源をOFFにしてしばらく置いてからお使いください。

主な仕様

本体

形式：　記録再生消去一体型デジタルスチルカメラ
記録媒体：　SDメモリーカード、マルチメディアカード
撮影枚数の目安と記録画素数：（SDメモリーカード 16MB使用、同モードのみで撮影した場合）

スーパーファイン	約7～9枚	2048×1536 pixels
ファイン	約15～19枚	2048×1536 pixels
ノーマル	約54～64枚	1024×768 pixels
TIFF-RGB（非圧縮形式）	約1枚	2048×1536 pixels
動画（15秒で1枚）	約3枚	320×240 pixels

フォーマット：　JPEG準拠（Exif ver2.1）、DCF準拠（Design rule for Camera File system）対応、DPOF対応

（注）DCFとは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを、関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として規定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格『Design rule for Camera File system』の略称です。

撮影素子：　1/1.8インチ正方画素インターレース読み出し方式CCD（総画素数334万画素、有効画素数324万画素）
レンズ：　f=7.8mm～15.6mm（35mmフィルム換算、約38mm～76mm相当）F2.8～3.5
撮影距離範囲：　レンズ前面より　約90cm～∞
マクロ撮影時　約6cm～90cm（ワイド時）
約35cm～90cm（テレ時）
露出制御／測光方式：CCD画面分割マルチ評価測光、中央重点、スポット測光
制御方式：　プログラムAE、絞り優先AE、長時間露光
露出補正：　＋2.0EV～－2.0EV（1/3ステップ）
絞り：　固定（F2.8、F6.2）、自動
測光連動範囲：　LV6～LV16
ホワイトバランス：自動、手動（プリセット）、屋外（デイライト／曇天）、屋内（タングステンライト／蛍光灯）
シャッター：　CCD電子シャッター、絞り羽根独立プログラム電子シャッター併用方式（1秒～1/2000秒、2秒、4秒、8秒）
焦点調整：　ビデオフィードバック方式オートフォーカス（撮影時AF、常時AF）、マニュアルフォーカス
ファインダー：　実像式ズームファインダー

フラッシュ：　ボディ内蔵、充電時間約6秒（フル充電時、常温、当社測定基準による）、撮影範囲　約90cm～2.5m（ワイド時）
撮影モード：　フラッシュモード（自動発光／赤目軽減自動発光／強制発光／発光禁止／赤目軽減強制発光*）、マクロ撮影モード、遠景撮影モード、カラーモード（カラー／白黒／セピア）、ホワイトバランス（AUTO（オート）／太陽光／白熱球／曇天／蛍光灯／プリセット）、AEモード（プログラム／F2.8／F6.2）、フォーカス（AF／MF）、長時間露光（OFF／2秒／4秒／8秒）、感度（標準／2倍／4倍）、測光モード（評価測光／中央重点／スポット）
*“長時間露光”のとき設定可能
再生モード：　マルチ再生、プロテクト、消去（1画像単位）、全消去（フォルダー“DCIM”内の全画像*）、回転（左右90度）、スライドショー、DPOF設定
*但し、他社製のデジタルカメラで撮影した画像（フォルダー含む）は消去されません。
セットアップモード：日付の設定、フォーマットの実行、電子音の有無、オートパワーOFFの時間選択または有無（電源OFFになるまでの時間）、AFモードの選択（常時または撮影時）、モードロックの有無（撮影モードで設定した機能のロック）、電子ズームの有無、言語の選択（日本語または英語）、ビデオ出力方式の選択（NTSCまたはPAL）、連番リセットの実行、設定リセットの実行
液晶モニター：　内蔵式、1.5インチ11万画素低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター、モニター画素数　521×218 pixels

表示部

液晶モニター表示：電池残量、撮影モードの設定状況（フラッシュモード／マクロ遠景／ホワイトバランスモード／AEモード／フォーカス／長時間露光／感度／測光モード）、撮影可能枚数、電子ズーム（×1.3／×1.6／×2.0）、日付（電源ON後3秒間のみ）、フォーカスフレーム、SDメモリーカードのライトプロテクト状態（カードがライトプロテクトされてい

るときのみ表示)、記録画像(静止画／動画)、再生モード時の設定(マルチ再生／プロテクト／消去／全消去／回転／スライドショー／DPOF設定)、SETUP(セットアップ)モード時(日付設定／フォーマット／電子音／オートOFF／AFモード／モードロック／電子ズーム／言語LANGUAGE／ビデオ出力／連番リセット／設定リセット)

セルフタイマーLED(赤):セルフタイマー動作、撮影完了
カードアクセスLED(橙):画像記録処理中
スタンバイLED(緑):合焦表示、充電完了表示
警告LED(赤): フラッシュ充電中、カメラぶれ警告、リチウムイオンバッテリーの充電中と異常

入出力装置

出力: NTSC/PALコンポジットビデオ信号切替方式
入出力端子: ビデオ出力端子(φ3.5ミニジャック)、外部電源入力端子

電池

電源: 3.6Vリチウムイオンバッテリーパック、専用ACアダプターにて使用可能
充電時間: 約5時間(+10℃〜+30℃)
電池寿命:(目安) 撮影画像枚数(ストロボ50%使用、ファインモード時)
液晶モニターON時　140画像
液晶モニターOFF時　170画像
連続再生時間　約50分(液晶モニター使用)
(いずれもフル充電時、常温、当社測定基準による)

その他

動作温度: 0℃〜45℃
寸法: 87(幅)×55(高さ)×30(奥行き)mm(突起部含まず)
質量: 約165g(メモリーカード、バッテリー別)

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

保証とアフターサービス

修理お取り扱い・お手入れなどのご相談はまずお買い上げの販売店へお申し付けください。

保証書(別添付)

お買い上げの販売店から、お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずご確認の上お受け取りになり、よくお読みになったあと保管してください。
保証期間:お買い上げ日から本体1年間

保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げ店の販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてお買い上げ店にお持ちください。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品につきましては、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、デジタルスチルカメラの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年間です。
注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

P83〜P85の表に従ってご確認のあと、直らないときは、接続している電源を外してから、お買い上げの販売店へご連絡ください。
注)修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、また、ご送付される場合の送料および諸掛かりはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は、適切な梱包の上、紛失防止のため、受け渡しの確認できる手段(簡易書留や宅配便)をご利用ください。
※本製品の故障に起因する付随的損害(記録・再生に要した諸費用及び記録・再生により得べかりし利益の喪失など)については保証致しかねます。

カメラ本体に関する技術的なお問い合わせは…

- 株式会社コニカサービス
  住所:〒191-0003
  東京都日野市日野台5-22-17
  TEL:042-587-1044
  FAX:042-584-7556
- 電話での受付時間のご案内　10時〜17時
- 休業のご案内　土・日曜日・祝日
  その他の休業日(年末、年始、夏期休暇)

カメラ本体の修理に関するお問い合わせは…

- サービスステーション(本製品についてのお問い合わせ・カメラ修理の受付窓口)

東京(新宿)	160-0022	東京都新宿区新宿3-26-11新宿高野ビル4F	TEL(03)5269-0691(代)
大阪	541-0059	大阪市中央区博労町4-4-1コニカ大阪ビル3F	TEL(06)6253-0251(代)
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄2名古屋情報センタービル3F	TEL(052)221-8950(代)
福岡	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-9-2YAOJIセンタービル4F	TEL(092)451-4810(代)
札幌	060-0003	札幌市中央区北三条西1-1-1ナショナルビル7F	TEL(011)271-6434(代)
仙台	983-0852	仙台市宮城野区榴岡5-12-55NAVISビル4F	TEL(022)298-9050(代)
広島	730-0037	広島市中区中町8-6フジタビル1F	TEL(082)249-4116(代)

- 営業時間のご案内
  新宿　10:30〜18:30、その他9:00〜17:25
  ＊ 詳しくはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
- 休業のご案内

土・日曜日・祝日
その他の休業日(年末、年始、夏期休暇、新宿は特別休館日はもあります。)

＊コニカホームページ　http://www.konica.co.jp/

インデックス

〒163-0512　東京都新宿区西新宿1-26-2　新宿野村ビル

KD-300Z 本体に関する技術的なお問い合わせは…

株式会社コニカサービス
住 所：〒191-0003　東京都日野市日野台 5-22-17
TEL：042-587-1044
FAX：042-584-7556

※電話での受付時間は、10時～17時（土・日曜日・祝日は除く）

コニカホームページ　http://www.konica.co.jp/

お客様メモ　お買いあげの際に記入しておいてください。ご相談になるときに便利です。

型名	Digital Revio KD-300Z
お買い上げ日	年　月　日
販売店	電話（　　）

Printed in China